

2026年1月14日

各位

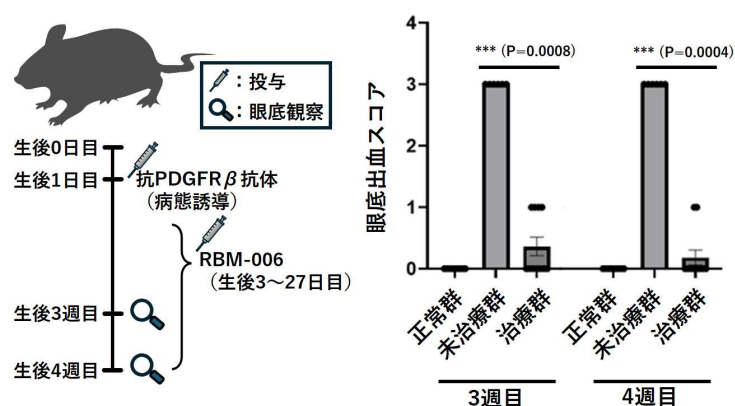
会社名 株式会社 リボミック
代表者名 代表取締役社長 中村 義一
(コード番号: 4591 東証グロース)
問合せ先 財務経理部長 今井 利哉
<https://www.ribomic.com/contact.php>

高活性 RBM-006(抗オートタキシンアプタマー)の新規物質特許出願と マウス糖尿病網膜症モデルにおける薬効確認のお知らせ

オートタキシン(ATX)は、生体の維持にはたらく重要な脂質メディエーター(LPA)を産生する重要な酵素で、その機能不全は多くの臓器の異常につながることが知られています。中でも、眼科疾患においては、緑内障、滲出型加齢黄斑変性、糖尿病網膜症、硝子体網膜症等の発症に関与することが示唆されており、当社はアプタマーを用いて、これらの眼科疾患に対する新規治療薬の開発を目指しています。

今般、既存の抗 ATX アプタマーの活性を凌駕し、かつ鎖長も短い新規抗 ATX アプタマー(RBM-006)の創製に成功し、新規物質特許の出願を完了いたしました(特願 2026-002511)。この新規アプタマーを用いた自社研究や東京大学医学部眼科学教室との共同研究により、緑内障、滲出型加齢黄斑変性、糖尿病網膜症、硝子体網膜症に対する治療効果を現在調べております。

それらの研究の一環とし、抗 PDGFR β 抗体を用いた網膜血管を取り巻くペリサイト脱落により惹起されるマウス糖尿病網膜症モデルにおいて、眼底出血を顕著に抑制することが確認されました(右図参照)。この結果は、本化合物が知的財産基盤の強化につながるとともに、糖尿病網膜症に対する治療アプローチとしての開発可能性を示唆するものです。



現在、糖尿病網膜症に対しては抗 VEGF 薬が第一選択薬ですが、長期治療でも半数以上の患者で効果がないため^{*1}、作用機序の異なる新規治療薬の開発が求められています。当社としては、今回特許出願した抗 ATX アプタマー(RBM-006)がそのニーズを満たす新薬となる可能性が高いと考えており、同剤は umedaptanib pegol に次ぐ主力製品と位置付けておりますが、先立って umedaptanib pegol においても、同一の糖尿病網膜症モデルを用いた薬理試験を実施し、糖尿病網膜症の主要な合併症である糖尿病黄斑浮腫への適用可能性を公表しております。umedaptanib pegol と RBM-006 の開発優先度について

ては、今後得られる試験結果を含む総合的な評価に基づき判断してまいります。今後、研究開発の進捗を踏まえつつ、製薬企業等とのパートナーリングによる、早期の事業化を検討していく予定です。

なお、当社の 2024 年2月20日付「第三者割当による第 17 回新株予約権(行使価額修正条項付)の発行及びファシリティ契約(行使停止指定条項付)の締結に関するお知らせ」で開示しましたとおり、RBM-006 の眼科疾患治療薬の開発に必要な資金調達を実施し、当初計画に基づく研究開発を進めながら、状況に応じた資源配分の最適化を継続的に検討しております。

本件による2026年3月期業績への影響はございません。

以上

引用文献

*1 *Clin Ophthalmol. 2023 Jul 17;17:2013-2025.*